

中学校武道必修化への対応について

スポーツ課

1 教育基本法の改正及び学習指導要領の改訂

平成 18 年 12 月に改正された教育基本法では、教育の目標として「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が新たに規定された。

その後、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申の中で、「武道については、その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善」することが示され、これを受け、平成 20 年 3 月改訂の中学校学習指導要領に、第 1・第 2 学年の保健体育で武道が必修になることが明記され、平成 24 年度から完全実施されることになった。

2 本県の武道学習に関する状況

(1) 平成 22 年度の履修状況と平成 24 年度の予定

	平成 22 年度履修		平成 24 年度予定	
	学校数	%	学校数	%
a 柔 道	44 校	23.3%	41 校	22.1%
b 剣 道	120 校	63.5%	125 校	67.2%
c 柔 道・剣道	16 校	8.4%	18 校	9.7%
d 相 撲	3 校	1.6%	1 校	0.5%
e 弓 道	0 校	0%	1 校	0.5%
f 未実施	6 校	3.2%	—	—
計	189 校	100%	186 校	100%

※ 本県においては平成元年度の学習指導要領の改訂以後、すべての中学校において武道学習の指導実績がある。

※ 平成 24 年度に柔道を履修する学校は 59 校（a + c）で、全体の 31.8%

(2) 中学校保健体育科教員（非常勤講師を除く 452 名）の武道経験状況（平成 24 年 1 月調査）

	柔 道		剣 道	
	人 数	%	人 数	%
a 段位取得者	197 名	43.6%	126 名	27.9%
b 武道指導経験者	166 名	36.7%	341 名	75.4%
c 武道単位履修者	338 名	74.8%	323 名	71.5%

※ 柔道については段位の取得率が高く、約 4 割の教諭が取得している。

3 武道必修化に向けたこれまでの安全対策

(1) 武道講習会の開催（教員の武道指導力向上）

平成 20 年度から、安全指導を含めた武道指導法に関して、体育センター主催とスポーツ課主催の 2 種類の講習会を開催

	H20	H21	H22	H23	合 計	総受講者数
回 数	4 回	4 回	4 回	10 回	22 回	299 名
日 数	8 日	8 日	8 日	12 日（2 日間開催×2 回） （1 日開催×8 回）	36 日	

(2) 指導手引きの作成、配布

「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校事業」(文部科学省委託事業)の中で実践研究をしてきた指導法を冊子とDVDにまとめ、県下の全市町村教委、全中学校に配布

(3) 外部指導者の活用への支援

より安全面を配慮しながら技術的な指導を充実させるために、地域の武道指導者が学校と連携して指導にあたるように外部講師の派遣について支援

ア 学校体育実技協力者派遣事業(県単事業)

H20・21年度、柔道指導者を臼田中学校へ1名派遣

イ 中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校事業

H22・23年度、柔道指導者を中野平中学校・上田第一中学校へ各1名派遣

ウ 長野県県警OB組織「警友会」への外部指導協力依頼

4 平成24年度以降の安全対策について

(1) 柔道指導経験が少ない教員配置となる中学校への対応

平成24年度柔道履修予定校(59校)の教員の柔道指導力について(平成24年1月調査)

柔道実施校 全59校	47校			10校		1校	1校
	41校	5校	1校	4校	6校	1校	1校
a 有段者	○	○	○	—	—	—	—
b 履修経験者	○	○	—	○	○	—	—
c 講習会参加者	○	—	—	○	—	○	—

※ abcすべて「なし」の中学校では、平成22・23年度において柔道を選択していない。

柔道指導経験が少ない教員配置となる学校には以下の支援を行う。

- ① 講習会参加要請
- ② 県教委作成の手引き書の再配布
- ③ 外部指導者の優先的な派遣
- ④ 柔道学習の安全面に関する指導内容の徹底

(2) 教員の武道指導力向上への支援

ア 武道指導法講習会の開催と参加促進

ウ 指導手引き書の活用促進

イ 郡市ごとの講習会開催の奨励、支援

エ 脳損傷に関する医学的な知識についての情報提供

(3) 外部指導者活用への支援

ア 学校体育実技協力者派遣事業による外部指導者派遣

イ 警友会からの指導者派遣

(4) 柔道学習における安全面に関する指導内容

ア 初心者への指導に際しては特に以下に留意の上で指導を行う。

1年生に対しては、重大事故を防止する観点から、頭部に衝撃を与える可能性がある投げ技(「後ろ受け身」を必要とする「大外刈り」等)については指導しない。

2年生以後においても「大外刈り」等の投げ技は、「後ろ受け身」の技能が確実に身に付いた段階で指導する。

イ 事故防止のために指導上徹底すること

(ア) 安全で正しい技

- ・受け身：あごを引き、頭を上げた受け身
- ・投げ技：引き手を離さずに投げる

(イ) 段階的な技の習得

易しい⇒難しい、低い⇒高い、遅い⇒速い、弱い⇒強い、固定⇒移動、単独⇒相対